

災害で学ぶ「自然災害伝承碑」

～過去から未来へつなぐ災害教訓のバトン～

「自然災害伝承碑」とは？

- ◆ 過去に発生した地震、津波、洪水、土砂災害、高潮、火山災害等の**自然災害に関する事柄**（災害の様相や被害の状況など）が記載されている**石碑**や**モニュメント**です。
- ◆ 自然災害伝承碑の情報を**地理院地図**等に**掲載**することにより、過去の**自然災害の教訓**を**地域の方々に適切にお伝え**するとともに、教訓を踏まえた**的確な防災行動**による**被害の軽減**を目指します。

取組のきっかけ

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）



明治40年（1907）7月に発生した土砂災害の被災状況を伝える石碑が建立されていたが、**伝承内容が十分には活かされず**



国土地理院で情報の整備・掲載を開始



地図記号
(地理院地図表示アイコン)



地理院地図
(自然災害伝承碑を表示)

地理院地図では、地図上のアイコンをクリックすることで、自然災害伝承碑の写真や災害名が見られます。さらに写真をクリックすると、災害種別、伝承内容などについても確認できます。

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集



ID:34309-002

掲載分布図



自然災害伝承碑の活用事例

自然災害伝承碑が過去の自然災害を学ぶきっかけとなり、実際に過去の教訓が地域で活用されるよう、**当院ホームページ**で**活用事例**を紹介しています。

学校における学習教材



地理・歴史や小学校社会科等の教材に利用することで、身近な災害履歴を学ぶ

地域探訪の目標物



歩こう会などの探訪コースの目標物とすることで、参加者が地域を歩きながら、過去の災害情報に触れる機会を創出